

鹿児島市 維新ふるさと館

旅行の途中、西郷隆盛のお墓参りをすませた後、「維新ふるさと館」というところに立ち寄りました。

ここ「維新ふるさと館」は、幕末から明治維新に活躍した西郷隆盛や大久保利通などの生誕の地であり、又「維新のルーツ」とも言える鹿児島市加治屋町に位置しています。

島津氏700年の治世、城下町の伝統を育みながら海を通して、世界とつながっていた鹿児島、近代日本の夜明けを告げた鹿児島のエネルギー、その秘密がここで分かりました。

館内では近代日本の始まりといわれる鹿児島(薩摩藩)の歴史や先人たちの偉業を、音や光や人形などを駆使して、楽しく分かりやすく紹介していました。

特に地下1階の「維新体感ホール」で上映されるドラマ「維新への道」では、西郷隆盛や村田新八、大久保利通などのそっくりな口ポットとスクリーンにより、当時の様子を臨場感たっぷりに上演していました。



明治維新は、まさに日本の一大変革、幕末の薩摩がいかに早く世界の情勢をつかみ維新という大業を成し得たか！

「寺田屋事件」「薩英戦争」「薩長同盟」「大政奉還」・・・そして「西南戦争」。

歴史の大きなうねりと、人々の波乱の道のりを、わかりやすく、テンポよく紹介しています。

薩摩藩といえばもうひとつ、1867年(慶応3年)に日本が初参加したパリ万国博覧会での事が有名です。

将軍徳川慶喜率いる幕府代表使節団(今で言う日本代表団)が到着する10日前、4月1日の開会式当日、すでに薩摩藩使節団としてパビリオンを建て開会式に参加していました。

これにはさすがの幕府代表も驚き、激怒したようですが、当時のパリの新聞各社は日本には「薩摩琉球国」と「幕府」の二つの政府があると書き立てたようです。

これが明治維新のわずか一年前の出来事だということですから、見るにつれ、聞くにつれ、幕末とは本当に激動の時代で、薩摩はすごい国だったようです。

明治維新と西郷隆盛に代表される独特の気概は今も脈々と流れ、維新の主人公は我々鹿児島であるという自負が極めて強い地、鹿児島。

人情味豊かな本当に楽しい街でした。それにしても維新のもう一人の雄、大久保利通が鹿児島ではまったくもって人気がないのには驚きました。

なぜかって???

それは皆さんでお調べください。(植田茂夫)

食べて来ました、鹿児島料理!

食べて来ました、鹿児島料理! とりあえず、旨いです!

鹿児島に居る間に、色々なものをいただきましたが、新鮮で量が多いです! 「さつま揚げ」に「きびなご」「地鶏の刺身」「とんこつ角煮」等々「芋焼酎」や珍品? 「酒寿司」もお酒好きの自分にはたまらない限りでした。

お昼に食べた天麩羅定食には大きな海老が3本も入っているし、刺身定食を頼んだ者は刺身が食べきれないくらいに! しかし何より印象的なのは、「黒豚しゃぶしゃぶ」です! 鹿児島へ行く前から別名「黒豚旅行」と、社内で行われていたが、すっかりハマってしまいました...料理が来た時に、そばつゆで食べると言う事に疑問を抱き、一口食べてみると、「なんか肉うどんの味やな」と普通の感想。しかし! 食べるにつれて、だんだん旨くなり、いつまで食べてもひつこくならず、飽きの来ないお肉です! だんだんペースが上がり、たっぷり有った黒豚肉も気持ちよく無くなりました。

あれだけの量の肉を、食べきってまだまだ欲しくなる魅力!

あの味が忘れられず、翌週日曜日の我が家の夕食は、豚しゃぶ、そばつゆ+きざみねぎたっぷり! 子供たちには物足りない様で、ボン酢派も。又その翌々週の日曜日に、今度は焼きしゃぶ! 自分はまた、きざみねぎをたっぷり入れた、そばつゆにてトライ! 焼肉のタレや、ボン酢で焼きしゃぶを食べていた子供たちですが、ひつこく成ってきたのか、途中で

力! あのだ味が忘れられず、翌週日曜日の我が家の夕食は、豚しゃぶ、そばつゆ+きざみねぎたっぷり! 子供たちには物足りない様で、ボン酢派も。又その翌々週の日曜日に、今度は焼きしゃぶ! 自分はまた、きざみねぎをたっぷり入れた、そばつゆにてトライ! 焼肉のタレや、ボン酢で焼きしゃぶを食べていた子供たちですが、ひつこく成ってきたのか、途中で



鹿児島旅行記

鹿児島旅行日程

今回、55周年の記念に鹿児島へ社員旅行に行ってきました。以下が内容充実、2日間たっぷりの旅程です。鹿児島市の主な観光地はこの行程ではほぼ観光できますよ。

- 1日目 大阪国際空港(7:50) 鹿児島空港着(9:00) <レンタカーにて>知覧特攻平和会館 武家屋敷郷土料理の昼食 ホテル富屋食堂 池田湖長崎島 砂むし温泉入浴(指宿) ホテル(鹿児島市内) *夕食は市内天文館、名所、名店は多数有り。*ちなみに私たちは郷土料理と飲み放題でした。
2日目 ホテルにて朝食(レンタカーにて) 城山南洲墓地 西郷南洲顕彰館 西郷隆盛銅像 海鮮料理の昼食 維新ふるさと館 芋焼酎専門店 桜島フェリー乗船 桜島観光 鹿児島空港(18:50) 大阪国際空港着(20:00)

*飛行機往復と1泊朝食付のホテルパックにレンタカープランがお得でしょう。鹿児島観光で何かご質問がありましたら、前職 阪急交通社 営業・メディア担当でした、ウジタオートサロン現営業の氏田裕吉までどうぞ。 y-ujita@ujita.co.jp



力! あのだ味が忘れられず、翌週日曜日の我が家の夕食は、豚しゃぶ、そばつゆ+きざみねぎたっぷり! 子供たちには物足りない様で、ボン酢派も。又その翌々週の日曜日に、今度は焼きしゃぶ! 自分はまた、きざみねぎをたっぷり入れた、そばつゆにてトライ! 焼肉のタレや、ボン酢で焼きしゃぶを食べていた子供たちですが、ひつこく成ってきたのか、途中で

知覧特攻平和会館

今回の鹿児島旅行で立ち寄った、「知覧(ちらん)」について紹介させていただきます。敗戦色の濃くなった太平洋戦争末期、いよいよ軍は捨て身の攻撃に出ます。



その時期には様々な悲惨な出来事があったのですが、片道分の燃料しか入っていない飛行機に爆弾を抱え、敵の船舶や陣営に体当たりする「特攻隊」の話が有名です。ここ知覧には当時、陸軍の特攻基地がありました。

沖縄にまで勢力を伸ばした米連合艦隊へ体当たりする為に知覧から、飛び立った特攻隊員は1000人以上。国の為、家族の為、若い命を散らしたとの事です。

その隊員の鎮魂と世界の恒久平和を祈念する為に設立されたのが、「知覧特攻平和会館」でした。

特攻による戦死者の方と同じ数の供養石灯籠の間を車で進むと、会館の建物が見えて来ます。中には遺品や当時の飛行機などが展示されています。圧巻は多くの隊員の遺影と、残された遺書や家族への手紙でした。弱音を知られると「非国民」などと罵られた時代です。「お国の為に喜んで、」という遺書にどれくらい彼らの本当の気持ちが表れているかはわかりません。

20歳になるかどうかの若者たち、国のため、実は大切な家族のために自分の命を懸けての事だったと思います。

残された両親や家族に悲しい思いをさせないように気遣った気丈な文面にその思いが少しは見えたような気がしました。そんな中、一通の遺書が目にとまりました。白い紙に黒々とした毛筆の達筆で「一度死んで見るべえ」。

冗談めかして書いているようですが、笑い飛ばしてしまわないと正気で居られなかったであろう彼の気持ちを考えると心が痛みました。

この会館設置にあたり尽力された、特攻の母、富屋食堂の鳥濱トメさんのビデオも流されており、その語りに涙される想いでした。高倉健、田中裕子の映画「ホテル」の撮影に使われた富屋食堂のオープンセットがそのまま「ホテル館」として保存されており、あわせて見てきました。



付近の見学が終わり、外へ出ると平和そのもののノド力な鹿児島市の青空でした。

色々な事をゆっくり考えさせてくれる。知覧はそんな所でした。鹿児島にいかれたら、是非一度立ち寄ってみてください。(安田和弘)



色々な事をゆっくり考えさせてくれる。知覧はそんな所でした。鹿児島にいかれたら、是非一度立ち寄ってみてください。(安田和弘)

から私のそばつゆをつけて食べてました。

あの時ほどの味わいには、及ばないものの、そばつゆ+きざみねぎたっぷりです。何かあのときの思い出が、旨く料理がいただけます。

現地では黒豚用に色々な種類のつけだしが有るそうです。皆様もお試しあれ! (加藤宣晶)